

「土砂災害を身近に感じて」

愛媛県 今治市立亀岡小学校 5年 ^{しらいし}白石 ^{るい}琉晟

今年は記録的なもう暑に加えて、特別警報が出されるほど記録的なごう雨が全国各地で発生した。それにとともに、全国各地で土砂くずれや土石流などがたくさん発生し、多くの方が亡くなったり避難を余儀なくされたりした。そして、大きな被害がテレビや新聞で報道されているのを見る度に、土砂災害のおそろしさを感じていた。

そんなぼくにも、土砂災害を身近に感じる出来事があった。今年の夏休みが始まってしばらくしたある日、ぼくの祖母と同じ学級の友達の家とを結ぶ市道が、土砂くずれで通行できなくなったのだ。また、同じ町内からとなりの市を結ぶ県道も、同じように土砂くずれで通行止めになった。ぼくの近くの市道は早めに通行できるようになったが、県道の方は数か月通行止めが続き、地域の方々はとても不安な日々を送ったようだ。

まさか自分のすぐ身近な所で土砂災害が起こるとは思っていなかったぼくは、「もっと土砂災害を防ぐために、どうすればよいか。」ということを考えてみた。そしてぼくだけでなく、みんなで土砂災害を防ぐことに関心をもち、みんなで取り組むよう意識を変えていくべきだと思った。

一つ目の考えは、地域の土砂災害警報の場所をぼくたち自身でも調べて、みんなの学習や生活の中で生かすということだ。最近、津波や地震などの防災に関するマップ作りをする取組が増えてきた。土砂災害についても、県や市の関係部署に情報をもらったり、地域の方に協力してもらって土砂災害が起こりそうな場所を調べたりして、ハザードマップを作り、その資料をもとに学校でみんなと学習したり、訓練を行ったりすれば、一人一人の危機意識が高まり、土砂災害の被害を少しでもなくするのに役立つのではないかと思う。

二つ目は、土砂災害を防ぐための具体的な取組に関心をもっていくということだ。たとえば土砂くずれ防止ネットをはったり、植林をしたりすることだ。また、砂防ダムを造ったり、土砂くずれが起こりそうな山の斜面などの補強工事をするのも大切だろう。ぼくたちは、そういう地道な取組がいろいろな所で行われていることを知り、「自分たちにもできることはないか。」と考えることで、土砂災害を防止することに対して、みんなの視点や取り組む意欲が確実に変わってくるとぼくは信じている。

三つ目は、大人だけでなくぼくたち小学生も一人一人が、日ごろから土砂災害へ備えをしておくということだ。いざとなればどこへ避難するか、気象や河川等の情報がすぐにわかるような手立てを用意しておくなど、自分の身の安全は自分で守るという気持ちで生活しておくことが大切である。「災害は忘れたころにやってくる。」という言葉をみんなで心の中にとめておきたい。

四つ目は、土砂災害防止に関するこく演会やこく習会、見学会等に積極的に参加し、地域の人々みんなで勉強する機会をもつということだ。ぼくたちの担任の先生の友達は、実際にこのこく演会や見学会に参加して、本やインターネットでは十分に伝わってこないような中身のこい勉強ができたそうである。ぼくたちも、今年の3月に愛媛県今治土木事務所の所長さんが来校され、ぼくたちにもわかるように、土砂災害のおそろしさや県や市の取組を話してくださった。ぼくは、初めて聞いたことがたくさんあったので、とてもためになった。これからも、小学生を対象にしたこく演会や見学会が増えれば、ぼくたちのように勉強になり、実際に役立つと思う。

気候がはげしく変化し、それにとともに自然環境や身の回りの環境も大きく変わってくる。ぼくも、地域の一員として土砂災害防止のためにできることを協力していき、今の生活を守ることに役立っていきたい。